

平成29年度豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

一般学科 教授 榎本 貴志

榎本貴志教授は平成14年4月に着任して以来、次のような活動実績を残してきた。

教育研究では、平成22年度より1年生向けに授業時間外の物理勉強室を開催し、物理が苦手な学生や理解を深めたい学生のサポートを行ってきた。1年生の50～70%が自主的に参加しており、非常に好評である。この勉強会が参加学生にもたらした効果について定量的分析を行い、教育誌等で発表した。この活動が学生の学力向上を助け、第3学年学習到達度試験の好成績の一因となっている。授業については丁寧で分かりやすいと好評で、授業評価アンケート結果も高い評価を得ている。低学年指導だけではなく、大学編入試験や入社試験をひかえた学生への個別指導も継続的に行ってきた。

自身の専門である表面科学の研究分野においても、極端に非対称なX線回折法による微小格子歪みの分析方法の開発に関して優れた論文が科学雑誌に掲載された。また複数の科学雑誌のレフェリーも行ってきた。

学校運営では、平成15年度より10年間、主事補として学校運営をサポートしてきた。教務主事補では入試関連業務と入試分析、総務主事補では外部講師のネット配信講座の取りまとめ・夏季TOEIC対策講座の実施、寮務主事補では低学年寮生の生活アンケート分析・女子寮担当補として活動実績を残した。また、平成28年度に行われた一般学科棟改修工事については、平成24年度の概算要求用平面図作成の時点からこの改修に関わり一般学科の意見取りまとめを担ってきた。平成28年度は、部屋の仕様書の作成・機構本部のヒアリングでの説明・設計業者や搬入業者との打合せ等を経て、一般学科棟を明るく解放感のあるフロアとして改修することに成功した。

学生指導面では、これまで指導教員として、成績不振に悩む学生のサポートも含め、手堅いクラス運営を実現してきた。一般学科では、平成23年度から学年団による指導制度を改善したが、その実務的な取りまとめや他部署との連携交渉を今徳義教授・金坂礼尚教授とともに実行し、現在の指導の枠組みを構築した。同時に、ここ10年に亘る入学年度に対する学習成績の変動について分析を行い、改善後の学年団指導の有効性を示すとともに、今後の改善点についても総括を行った。

以上の通り、榎本貴志教授は、教育研究・学校運営・学生指導面での活動に顕著な功績があるので顕彰する。

平成29年度 豊田工業高等専門学校 教員顕彰理由

情報工学科 准教授 早坂太一

早坂太一准教授は、豊橋技術科学大学工学部より転任してから15年間、本校の持続可能な発展に大いに寄与してきた。

同准教授は、転任当初は教務主事補をはじめとした教務事務系の役職に就くことが多かったが、平成22年度にキャリア教育支援室の立ち上げに携わり、指導教員の経験を経て、平成29年度より学生主事補およびキャリア教育支援室長を兼任するなど、学生支援系の責務にも尽力している。他にも、平成18年度にマルチメディア情報教育センター長を務めるなど、重職を幅広く担っている。

同准教授は、脳の学習機構に対する数理統計的および認知心理学的アプローチによる研究に従事していることから、興味を示さない学生が多いという理由で敬遠されがちな機械学習および人工知能分野の基礎知識や理論についても、本科および専攻科の講義において、昨今のブームが来る以前より積極的に取り扱っている。さらに、流行りのDIYプラットフォームに留まらない「ものづくり」のスキルを養成すべく、自ら教材を開発するなどして、普遍的および実践的な内容の演習をバランス良く進めており、それらの一部を展開することで、オリジナルの電子工作キットを開発し、小中学生向けの公開講座の実施にも繋げている。

造詣の深い脳の学習機構に関する知識を利用して、同准教授は、一般学科 加藤弓枝准教授ならびに電気・電子システム工学科 大野互准教授らと、日本語の歴史的典籍における「くずし字」翻刻システムの開発を平成27年度より進めている。この研究については、科学研究費助成事業に採択されると共に、中日新聞および読売新聞といった全国紙に掲載された記事をきっかけにして、民間企業との共同研究も開始されており、首尾良くまとまれば、日本全国および海外の大学や図書館、研究機関などへ波及することも大いに期待される。他にも、専攻科生に対する研究テーマとして、学科を越えた異分野共同研究や、豊田市の企業との産学連携も推進しており、順調に成果を挙げている。

課外活動では、平成21年度から弓道部の部長教員を担当している。弓道競技は全国高等専門学校連合会主催の全国大会が実施されていなかったこともあって、他高専の教員と協力し、他競技と同様に毎年、地区予選を勝ち抜いた選手たちが雌雄を決する「全国高等専門学校弓道大会」を平成26年夏に初めて開催することができた。同准教授は、それを主催する全国高等専門学校弓道連盟の副会長を平成27年度から務めている。

以上のとおり、早坂太一准教授は、学校運営、教育、研究、地域貢献および課外活動指導といった面で顕著な功績があるので顕彰する。

平成29年度豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

環境都市工学科 講師 佐藤 雄哉

佐藤雄哉講師は、平成27年4月に着任以来、教育・研究面で活躍し、学校運営などにも大いに寄与してきた。

研究活動については、着任以来、地方都市の土地利用制度に関する実態分析（科研費：基盤(B)分担者ほか外部資金3件）に継続的に取り組んでいる。また、都市計画と防災施策の連携実態に関する研究（科研費：若手(B)代表）にも精力的に取り組んでいる。さらに、他高専の研究者と連携し、人口減少時代の都市計画のあり方に関する研究（高専機構平成29年度研究プロジェクト経費助成事業）にも取り組んでいる。これらの成果は、学会等で発表し、高い評価（日本都市計画学会論文奨励賞、年間優秀論文賞）を受けるだけでなく、指導学生が国際会議での発表でBest Poster Awardを受賞するなど、研究力の向上と学生指導の質の向上の双方で顕著な成果を挙げている。

教育活動については、低学年科目では講義時間外の補習などを積極的に開催し、クラス全体の理解度・定着度向上に取り組んでいる。高学年科目では、スライドや動画などを適宜活用し、実生活と講義内容を結び付けて理解できるよう工夫している。また、平成27年度より地域・行政・他高専・大学と協働し、地域課題の解決に取り組むシャレットワークショップを毎年夏に開催（外部資金2件を獲得）しており、4・5年生が参加することで実体験に基づいた卒業研究への取り組みにつながっている。

課外活動については、着任以来、ソフトテニス部とダンス同好会の副部長教員として、練習や対外試合、学内・学外合宿などの引率・指導に積極的に取り組んでいる。また、平成27年度に立ち上がった豊田高専ドミタウン実行委員会の活動に主体的に取り組む、学科横断型活動の調整・実施に奔走している。この活動で得た知見は論文として対外的に公表し、日本都市計画学会中部支部優秀講演者表彰を受賞するなど、高く評価されている。さらに、平成28年度には第6回小水力発電アイデアコンテストへの出場にあたり、担当者として学生とともに小水力発電装置の開発・設置・活用に取り組み、技術賞を受賞した。

学校運営については、平成28年度から学生主事補を務め、学生会行事、特にこうよう祭の運営を実行委員会メンバーである学生と協働し、成功へ導いている。また、平成27年度から務めている地域活性化推進本部員として、前述したドミタウン実行委員会の活動や小水力発電アイデアコンテストへ参加している。

社会貢献・地域貢献については、日本建築学会東海支部の委員（平成28年度～）や日本都市計画学会中部支部の役員（平成29年度～）などを務めている。また、みよし景観勉強会アドバイザー（国土交通省名古屋国道事務所：平成28年度～）や高浜市都市計画マスタープラン策定委員会委員長（高浜市：平成29年度～）、みよし市都市計画審議会委員（みよし市：平成29年度～）など、行政の審議会等で委員を務めている。

以上のとおり、佐藤雄哉講師は、教育・研究、学校運営面での活動上及び社会貢献に顕著な功績があるので顕彰する。